

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第174集

野沢城跡

長野県佐久市原野沢城跡発掘調査報告書

2010. 3

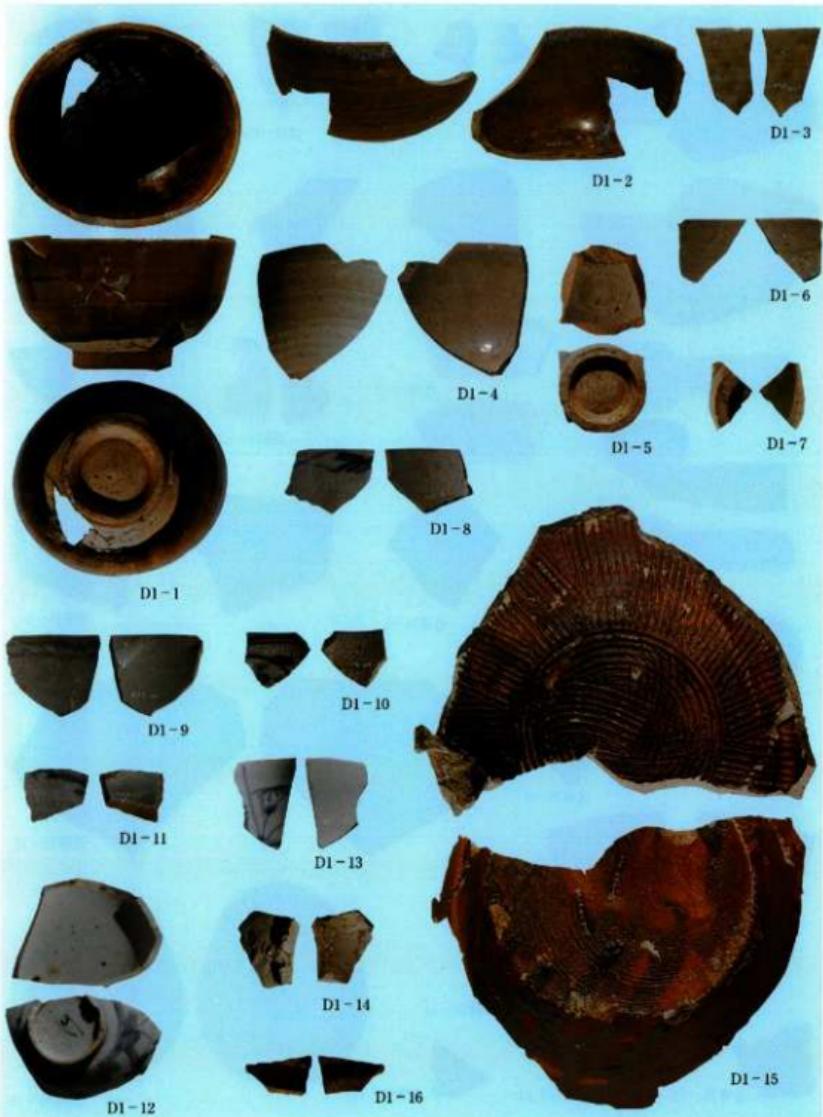
佐久市
佐久市教育委員会

野沢城跡

長野県佐久市原野沢城跡発掘調査報告書

2010. 3

佐久市
佐久市教育委員会



D1号土坑遺物



D1 · D5号土坑·遺構外遺物

例　　言

1. 本書は佐久市建設部都市計画課によるまちづくり交付金事業道路整備工事（跡部白田線）に伴う野沢城跡の発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市中込3056 佐久市建設部都市計画課
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び発掘所在地 野沢城跡（NOZ） 佐久市原423-3、423-1B外
5. 発掘担当者 現場・整理作業 上原 学
6. 本書の編集・執筆は上原が行った。
7. 陶磁器の分類・年代については長野県埋蔵文化財センター市川隆之氏に御指導いただいた。
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1. 遺構の略称は以下の通りである。
D - 土坑 S - 集石遺構 P - ピット
2. スクリーントーン表示は以下の通りである。

遺構	地山	
----	----	---
3. 掘図の縮尺は以下の通りである。
遺構　土坑 1/80 集石遺構1/80 ピット1/80
遺物　内耳土器・陶磁器類 1/4 石器類1/4 金属製品1/2
4. 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5. 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6. 土層は「新版 標準土色帖」による。
7. 調査グリッドは4×4mである。
8. 遺物観察表中の〔 〕は推定値、〈 〉は残存高を示す。

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 立地と経過	1
第2節 調査体制	1
第3節 造跡の概要	1
第4節 基本層序	2
第5節 歴史環境	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	5
第1節 土坑	5
第2節 集石遺構	7
第3節 ピット	7
第4節 遺構外遺物	8

写真図版

抄録

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過

佐久地域は周辺を山地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北方には現在も活発な活動を続ける浅間山が聳えている。南には蓼科山、東は浅間山と蓼科山を繋ぐように北関東山地が連なり、西には御牧ヶ原・八重原といった台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久市の水系の代表は千曲川で、市内を二分するかのように貫流し、北（右岸）と南（左岸）では地質学的にも大きく異なる。北は浅間山の山麓末端部に広がる平坦な台地で、浅間の噴火によって火砕流及び降下火山灰が厚く堆積している。この堆積層は雨水による浸食に弱く、浅間の麓から放射状に幾筋にも削り取られ、浸食谷を形成している。（田切り地形）これに対して、南側は千曲川の氾濫源沖積地及び周辺山間部の支流を集めた河川の谷口扇状地で、河床疊層と沖積粘土層地帯となる。また、周辺地域は地下水位も高く安定した土地であることから南部地域一帯は広く水田として利用されている。

調査対象となった野沢城跡は、佐久市南部地域の原地区に所在し、千曲川の左岸微高地上に位置する。標高は677m内外を測る。遺跡の中央には平安時代末から中世の居館である伴野城跡が所在し、部分的ではあるが発掘調査も行われている。

今回、佐久市建設部都市計画課が行うまちづくり交付金事業道路整備工事（跡部白田線）に伴い、試掘調査を実施した。その結果、対象地北端地域において、中世から近代にかけての遺構・遺物が認められたことから、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を実施するはこびとなった。



野沢城跡位置図 (1:100,000)

第2節 調査体制

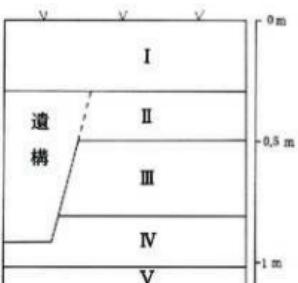
調査受託者	佐久市教育委員会	教育長 木内 清 (4~5月) 土屋 盛夫 (5月~)
事務局	社会教育部長	内藤孝徳 (4~6月) 工藤秀康 (7月~)
	社会教育部次長	金澤英人 (4~6月)
	文化財課長	森角吉晴
	文化財調査係長	三石宗一
	文化財調査係	並木節子 林幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也 富沢一明 神津格 (4~9月) 上原学 井出泰章 (10月~) 出澤力
調査主任		佐々木宗昭 森泉かよ子
調査担当者		上原 学
調査員		安藤孝司 江原富子 小幡弘子 土屋武士 比田井久美子 武者幸彦 渡辺長子 渡辺学

第3節 遺跡の概要

遺構	土坑 9基	集石遺構 1基	ビット
遺物	内耳土器	陶磁器	石製品 金属製品

第4節 基本層序

野沢城跡は千曲川左岸に広がる台地に展開していることから、基本的には千曲川の河床疊層及び沖積粘土層地帯となる。発掘調査地点における基本層序は次の通りである。I層は近年の整地層である。II層は強粘性的ややシルト質の褐灰色土である。III層は黄褐色土のシルト質で、この面の上面で遺構が鮮明に確認できる。IV層はやや粘性を持った黒褐色土層である。遺構掘り下げの際、III層の黄褐色土から黒褐色土に変化するため遺構の掘りすぎに注意が必要な層である。V層はシルト質の褐灰色土である。遺構の検出はIII層上面で行った。



第5節 歴史環境

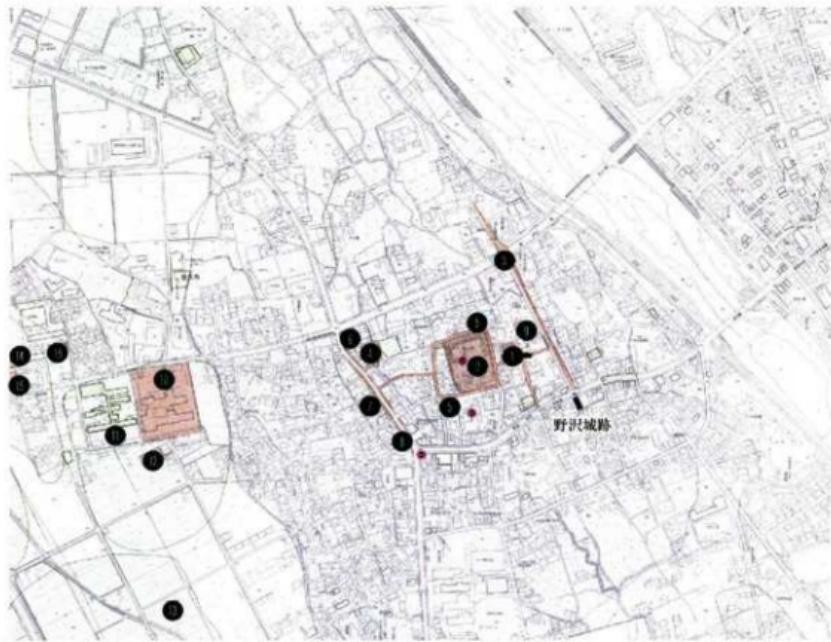
今回調査対象となった地域の北には昭和40年4月30日に長野県史跡に指定された「伴野城跡」が所在する。主郭を取り囲む土居が三方に残存し、外側に堀が巡っており、土居の内側は城山公園として使用されている。

伴野城跡の歴史的背景は、文治年中(1185~1190)、小笠原長清が佐久伴野・大井莊地頭に任じられ、その子長時が伴野の地に住み着き伴野六郎と称したことによる。伴野館はこの長時から子の時直の時代に現在の原型ができたとされるが、これ以前には、野沢氏の館が存在していたとも推察されている。この時の館は現在史跡となっている堀に囲まれた長方形の範囲内であり、「紙本着本一遍上人絵伝」には、土居内部に建てられた屋敷周辺の様子と考えられる場面が描かれている。その後、伴野館は弘安八年(1285)におこった霜月騒動により、伴野氏が失脚し、北条氏一族の居城となった。これにより、外郭部を造るなど、城の範囲を拡大し、伴野城跡と呼ばれるようになった。建武から正平年間(1335~1353)に再び伴野氏の居城となり、伴野長房は大徳寺領伴野莊を支配する。天文9年(1540)には甲斐武田氏の進攻により、伴野氏は武田氏に帰属する。その後、天正10年(1582)依田信蕃の侵攻により、ついに伴野氏は滅亡する。江戸時代に入ってからは官陣・陣屋・岩村田藩出張所など主に官公地として利用され続けた。

今回発掘調査の対象となった地域は、伴野館跡南東に位置し、野沢城の範囲内とされる南端付近の地域である。

参考資料 佐久市志 歴史編(二) 中世、佐久市の文化財

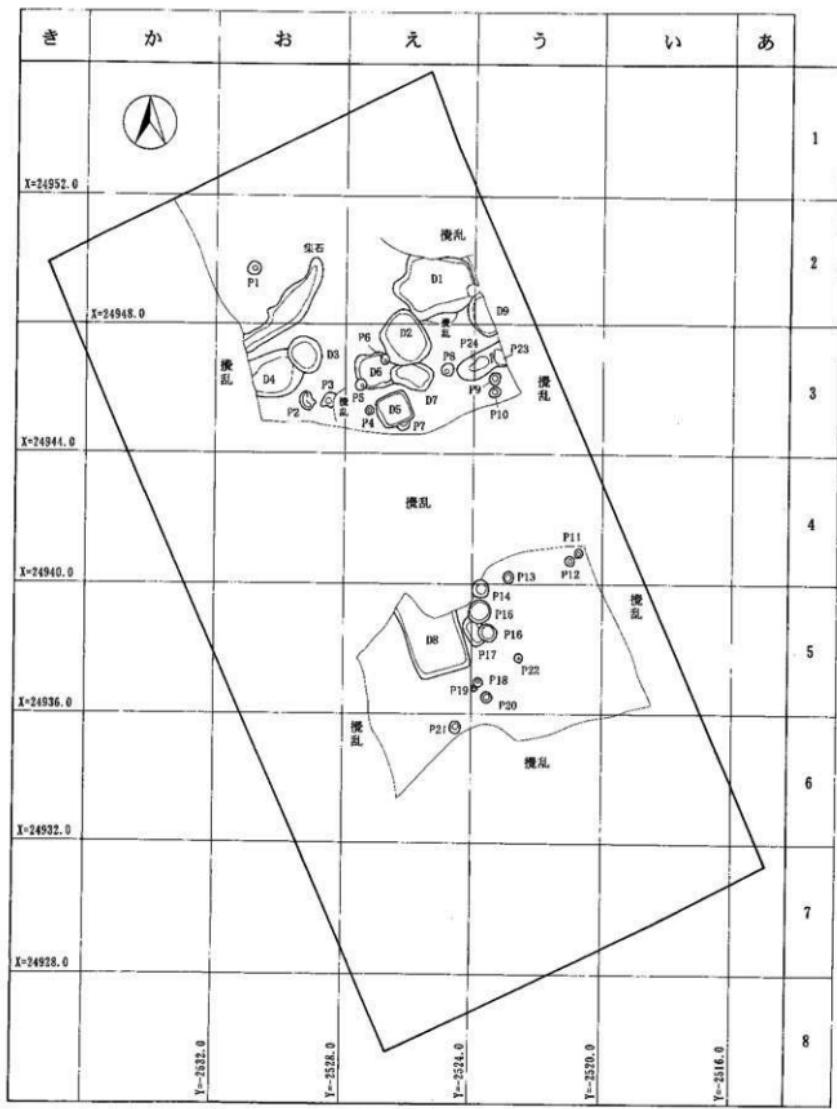




周辺遺跡位置図 (1:10,000)

No.	遺跡名	所在地	時代	検出遺構等	年度	備考
1	野沢船跡Ⅳ	佐久市原字屋敷	中世～近世	土坑・柱穴・近代特殊遺構一陶磁器・土師・鉄製品・吉錢・耳環	H13	第100集
2	野沢船跡Ⅴ	佐久市原字屋敷	中世～近世	船跡主体部・上層調査一土師器・土鍋・鉄造船器・石製品・古錢	H14	第119集
3	野沢船跡Ⅵ	佐久市原	中世～近世	土坑・柱穴一土師片・石製品・古錢	H15	年報13
4	野沢船跡Ⅶ	佐久市野沢字居屋敷	中世～近世	整穴状遺構・土坑・柱穴・廻・集石・地下室一陶磁器・内耳土器・かわらけ・鉄製品・石製品・古錢	H15	第132集
5	野沢船跡Ⅷ	佐久市野沢・原	中世～近世	船跡上部外堀調査一陶磁器・かわらけ・石製品	H16	第128集
6	野沢船跡Ⅸ	佐久市野沢	中世～近世	整穴状遺構・土坑・ピット・溝一須恵器・陶磁器・土師質・鉄製品・石製品・古錢	H17	第153集
7	野沢船跡Ⅹ	佐久市野沢字居屋敷外	中世～近世	整穴状遺構・土坑・ピット・溝一須恵器・陶磁器・土師質・鉄製品・石製品・古錢	H18	第153集
8	野沢船跡Ⅺ	佐久市野沢字居屋敷外	中世～近世	土坑・ピット・溝一須恵器・陶磁器・土師質・鉄製品・石製品・古錢	H19	第153集
9	崇福寺遺跡	佐久市原字屋敷	近世～近代	近世礎石・近景基壇一木札・伝壇・古錢等	H11	第81集
10	東五里田遺跡	佐久市野沢字東五里田	繩文～中世	整穴住居址・掘立柱建物址・ピット・土坑・溝・繩文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石製品・金属製品・陶磁器	H14・H15	第117集
11	東五里田遺跡Ⅱ	佐久市野沢	繩文～近代	整穴住居址・掘立柱建物址・土坑・ピット・溝一繩文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石製品・金属製品・古錢・陶磁器	H19	第166集
12	東五里田遺跡Ⅲ	佐久市野沢	弥生～平安	整穴住居址・土坑・溝状遺構一土師器・須恵器・二重陶器・石器	H19	第151集
13	飯田遺跡Ⅰ	佐久市野沢字飯田	古墳～平安	整穴住居址・埴輪一土師器・須恵器・石器	S45	野沢平飯田遺跡
14	野沢遺跡Ⅰ	佐久市野沢	奈良・平安	整穴住居址・土坑・ピット一土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品	S62	センタ-13集
15	野沢遺跡Ⅱ	佐久市野沢	奈良・平安	土坑・溝一土師器・須恵器・石器	S63	センタ-17集

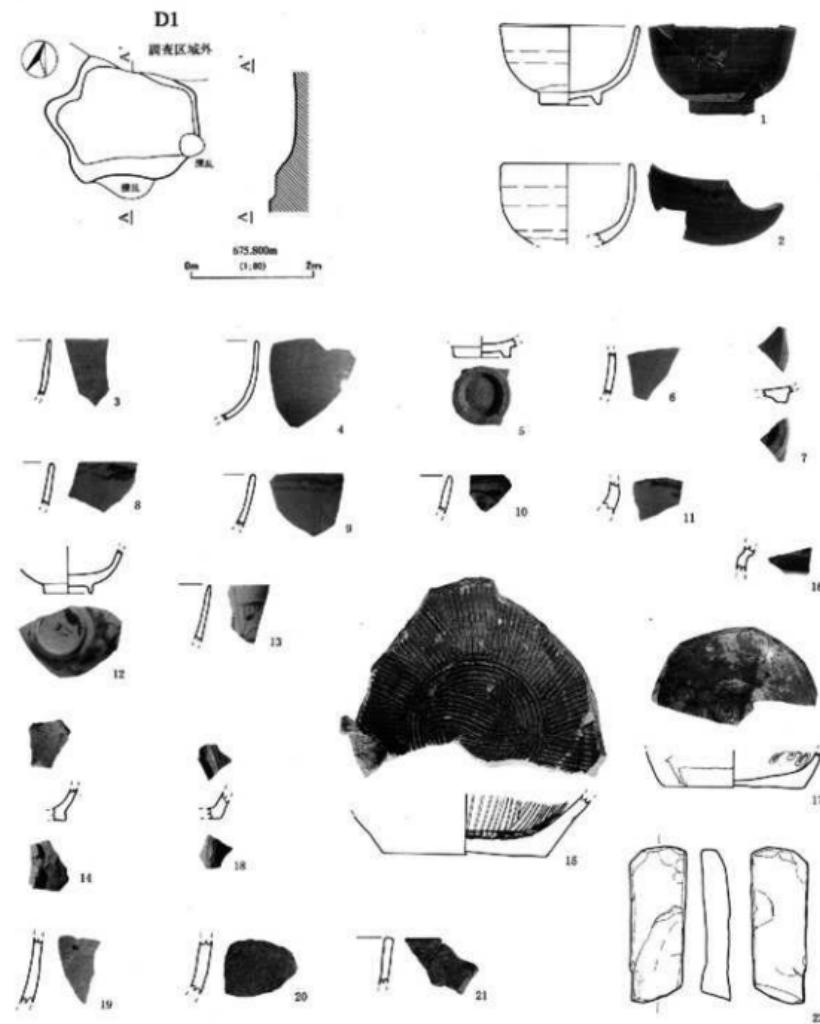
周辺遺跡発掘調査位置図表



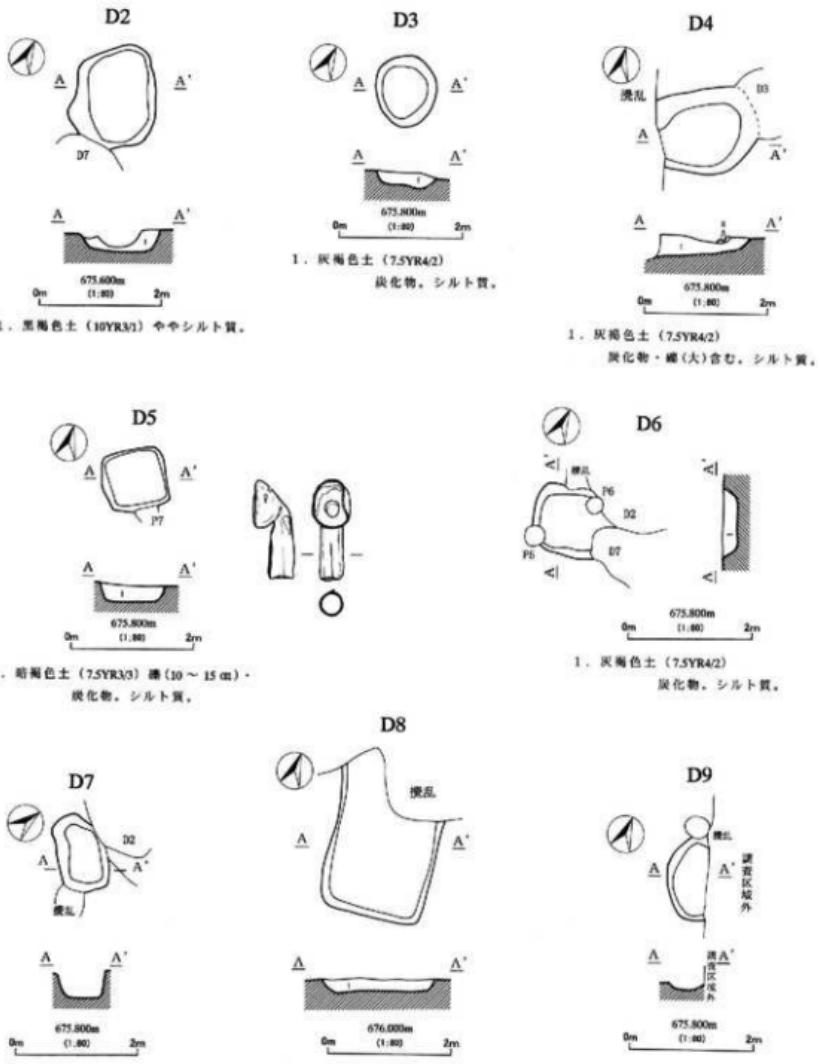
野沢城跡全体図 (1 : 150)

第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 土坑

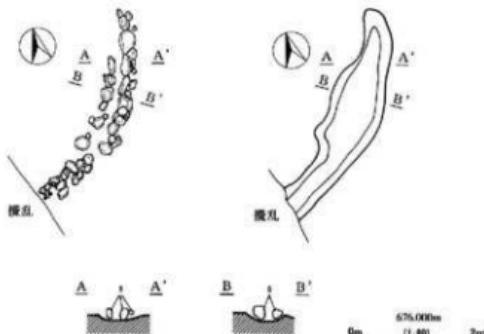


D 1 号土坑 遺構・遺物実測図



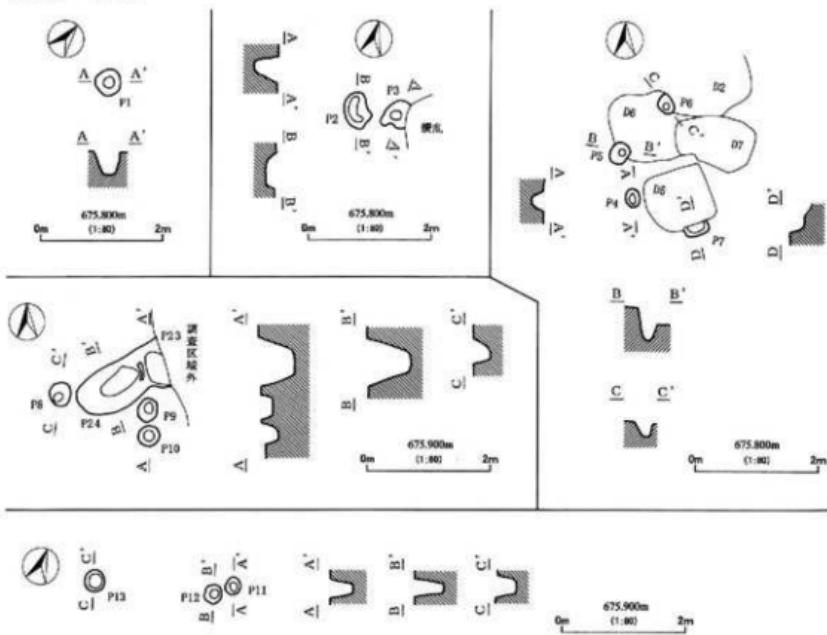
D 2 ~ D 9 号土坑造構・遺物実測図

第2節 集石遺構

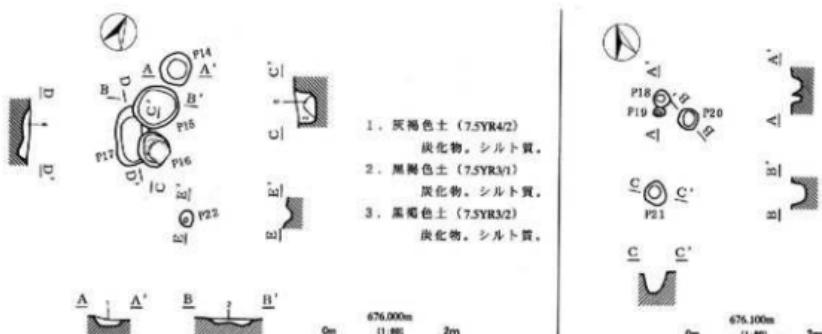


集石遺構実測図

第3節 ピット

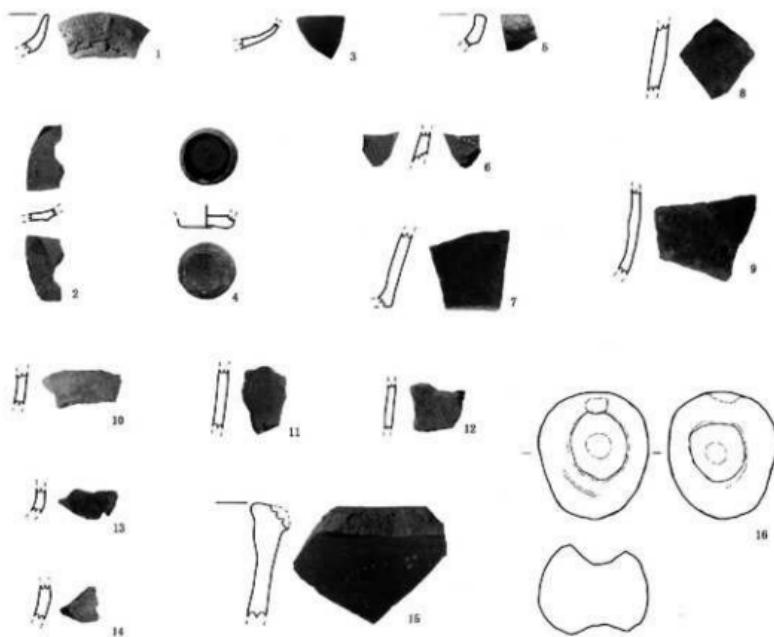


P 1 ~ P 13, P 23, P 24号ピット実測図



P14~P22号ピット実測図

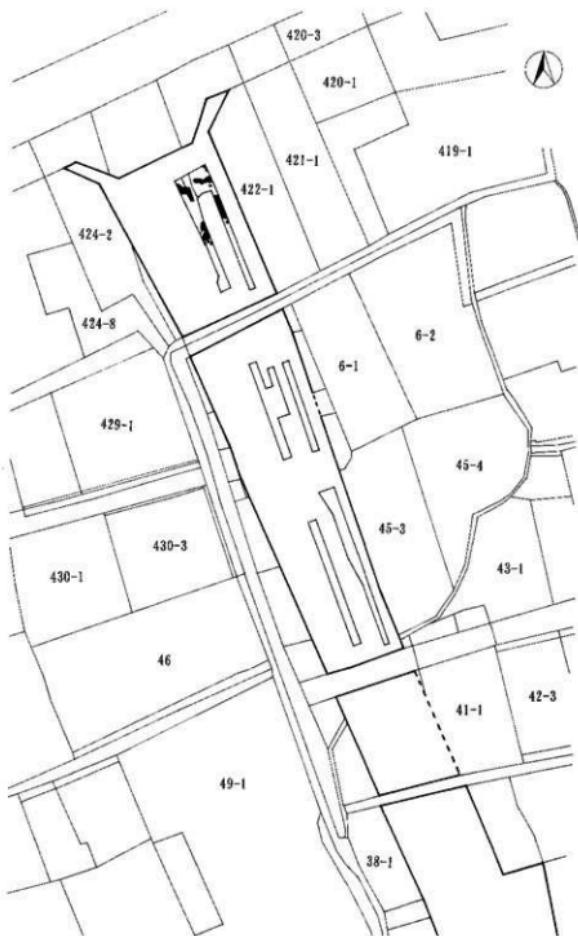
第4節 遺構外遺物



遺構外遺物実測図

遺構・番号	器種	器形	口径 cm	底径 cm	器高 cm	残存率・部位	備考
D1-1	前山焼	灰釉碗	11.5	5.1	6.5	80	18C後半
D1-2	前山焼	灰釉碗	[10.6]	—	(6.6)	口縁破片	18C後半
D1-3	前山焼	灰釉碗	—	—	(4.5)	口縁～体部破片	18C後半
D1-4	前山焼	灰釉碗	—	—	(6.6)	口縁～体部破片	18C後半
D1-5	前山焼	灰釉碗	—	4.7	(1.5)	底部・高台100	18C後半
D1-6	前山焼	灰釉碗	—	—	(3.4)	体部破片	18C後半
D1-7	前山焼	灰釉碗	—	—	(1.4)	底部・高台破片	18C後半
D1-8	磁器	染付陶胎碗	—	—	(3.5)	口縁破片	18C末～19C前半
D1-9	磁器	染付陶胎碗	—	—	(4.3)	口縁破片	18C末～19C前半
D1-10	磁器	染付陶胎碗	—	—	(3.0)	口縁破片	18C末～19C前半
D1-11	磁器	染付陶胎碗	—	—	(2.2)	体部破片	18C末～19C前半
D1-12	伊万里焼	染付碗	—	4	(3.6)	底部高台～体部破片	18C IV期
D1-13	伊万里焼	染付そばちょこ	—	—	(4.8)	口縁破片	18C
D1-14	東濃	山茶碗	—	—	(2.6)	底部～体部破片	13C
D1-15	前山焼	すり鉢	—	13.4	(5.2)	底部破片	18C後半
D1-16	前山焼	すり鉢	—	—	(1.9)	体部破片	18C後半
D1-17	前山焼	徳利	—	[14.4]	(3.0)	底部破片	18C後半
D1-18	前山焼	徳利	—	—	(2.0)	底部破片	18C後半
D1-19	前山焼	こね鉢	—	—	(5.3)	体部破片	近世
D1-20	在地	火鉢	—	—	(4.4)	体部破片	江戸
D1-21	土師質	内耳上器	—	—	(3.7)	口縁破片	16C
D1-22	石製品	すり石・砥石	長さ12.7	幅4.6	厚さ2.3		重量240.46g
D5-1	金属製品	キセル	長さ4.13	幅1.55・0.97	高さ1.68		重量3.47g
遺構外-1	志野焼	丸皿	—	—	(3.2)	口縁破片	17C初頭
遺構外-2	志野焼	丸皿	—	—	(0.9)	底部破片	17C初頭
遺構外-3	瀬戸美濃	鉄釉碗	—	—	(1.6)	破片	18C末～19C前半
遺構外-4	古瀬戸	天目茶碗	—	4.5	(1.0)	底部100	15C前半
遺構外-5	在地	すり鉢	—	—	(2.7)	口縁破片	18C末～19C前半
遺構外-6	在地須賀	すり鉢	—	—	(2.5)	体部破片	中世
遺構外-7	在地	火鉢	—	—	(5.8)	体部下部破片	近世
遺構外-8	土師質	内耳土器	—	—	(5.4)	体部破片	15～16C
遺構外-9	土師質	内耳土器	—	—	(6.9)	体部破片	15～16C
遺構外-10	土師質	内耳土器	—	—	(2.6)	体部破片	15～16C
遺構外-11	土師質	内耳土器	—	—	(4.8)	体部破片	15～16C
遺構外-12	土師質	内耳土器	—	—	(3.6)	体部破片	15～16C
遺構外-13	土師質	内耳土器	—	—	(1.8)	体部破片	15～16C
遺構外-14	土師質	内耳土器	—	—	(2.8)	体部破片	15～16C
遺構外-15	在地	壺	—	—	(9.3)	口縁破片	近世
遺構外-16	揭露		長径10.5	短径9.0	厚さ7.4		重量800.93g、両面埋み

遺物観察表



野沢城跡試掘トレンチ配置図



野沢城跡調査区全景（南から）



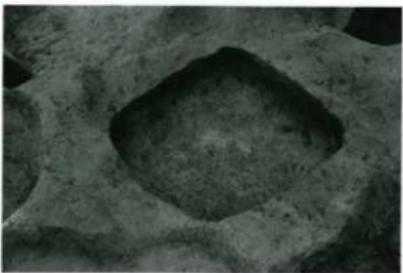
D 1号土坑全景（東から）



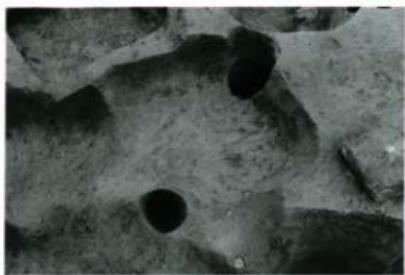
D 2号土坑全景（南西から）



D 3、D 4号土坑全景（南から）



D 5号土坑全景（南西から）



D 6号土坑全景（北から）



D 7号土坑全景（北西から）



D 8号土坑全景（南東から）



D 9号土坑全景（東から）



集石道橋全景（西から）



プレハブ設置状況（北から）



プレハブ設置状況（南から）



表土除去作業（北から）



調査区北側全景（南東から）



調査区南側全景（東から）



調査開始前全景（南から）



調査風景（南から）

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第174集

野沢城跡

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

長野県佐久市中込3056

文化財課

長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 有限会社 ヴィアン

報告書抄録

書名	野沢城跡
ふりがな	のざわじょうあと
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第174集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課
発行年月日	2010.3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
ふりがな	ながのけんさくしが
遺跡名	野沢城跡
ふりがな	のざわじょうあと
遺跡所在地	佐久市原423-3、423-1B外
市町村コード	20217
遺跡番号	佐久市52
北緯	北緯36度13分29秒
東経	東経138度28分18秒
調査期間	平成21（2009）年9月1日～平成21（2009）年9月30日（現場） 平成21（2009）年10月1日～平成22（2010）年3月31日（整理作業）
調査面積	350m ²
調査原因	まちづくり交付金事業 道路整備（跡部白川線）
種別	集落跡
主な時代	中世～近代
遺跡概要	城館跡一中世+近世+近代一土坑+集石遺構+ピット一内耳土器+陶磁器+金属製品+石製品
特記事項	建物跡地であるため、攪乱が広範囲におよんでいたが、中世から近代に至る遺構・遺物を確認することができた。